

保健師のベストプラクティスの明確化 とその推進方策に関する検討 報告書

平成20年7月17日(木)

保健師中央会議

保健師のベストプラクティス

特別なベテラン保健師の活動？

すべての保健師の“ありたい姿”

インタビュー対象 22名

◆地域保健： 9

都道府県保健所 2

保健所設置市 2

市町村 5

◆産業保健： 2

◆学校保健： 2

◆医療機関： 4

◆健診機関： 2

◆医療保険者： 2

◆福祉施設： 1

2007年問題

継承したい保健師の活動とその方法

「みる」

「つなぐ」

「うごかす」

保健師活動のコア

◆同時並行的

◆臨機応変・即興性

◆【理念的コア】 【活動のコア】

視点

姿勢

価値

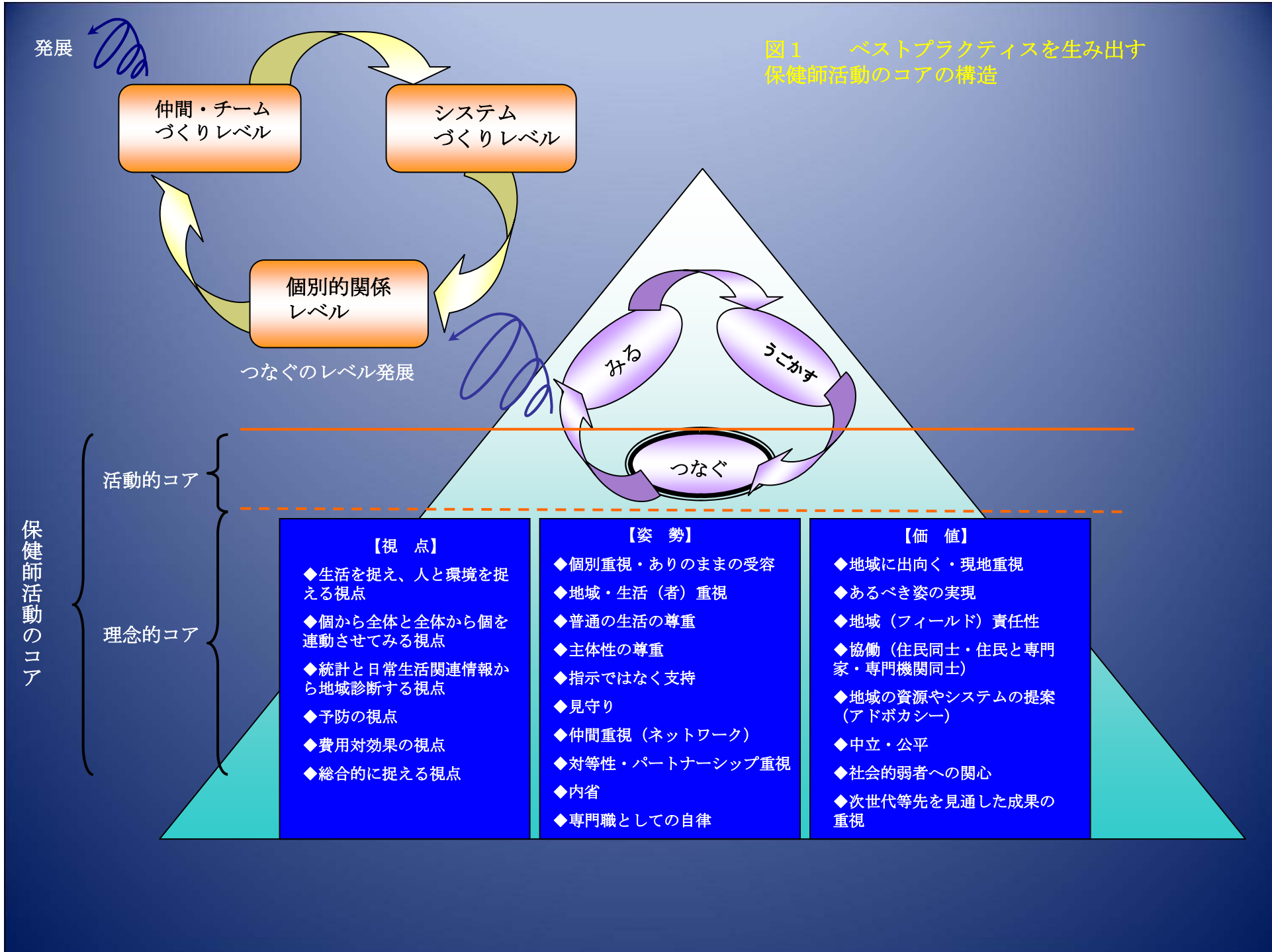
“つなぐ”

ドナルド、ショーンの反省的実践家

「反省的実践家」とは、複雑化した社会の中で苦悩する人々と連帯し「行為の中の知」「行為の中の省察」「状況との対話」によって、公共的使命と社会的責任を果たそうとする者である。知識や技術の専門分化した役割に自己の責任限定するスペシャリスト、すなわち「技術的熟達者」と対比される。

専門家の知恵～反省的実践家は行為しながら考える～、ゆみる出版、2001

図1 ベストプラクティスを生み出す保健師活動のコアの構造



理念的コア

【視点】

◆ 総体的 (as a whole)

- 生活を捉え、人と環境を捉える
- 個から全体、全体から個を捉える
- 統計と文脈のある、語られた情報から地域診断

- 予防・予測する
- (費用対効果)

理念的コア

【姿勢】

- 個別重視・ありのままの受容
- 地域・生活(者)の重視
- 普通の生活の尊重

- ✓ 指示でなく支持
- ✓ 見守り

- 仲間重視
- 対等性・パートナーシップの重視

- ◆ 内省
- ◆ 専門職としての自律

理念的コア

【価値】

- ◆地域に出向く・現地主義
- ◆あるべき姿の実現
- ◆地域責任性
- ◆協働
- ◆地域資源・システムの提案
- ◆中立・公平
- ◆社会的弱ものへの関心
- ◆次世代等を見通した成果の重視

活動的コア：つなぐ

【個別的关系づくりのレベル】

個別的关系な“つながり”において
“なりたい(あるべき)自分”が
住民にも保健師にも描け
それと現実の自分とを“つなぎ合わせ”
内発的に歩みだす

相互性・主体性

活動的コア：つなぐ

【支援チーム・仲間づくりのレベル】

仲間ができるように“つなぐ”

関係者を“つなぎ”チームをつくる

仲間が仲間と“つながり”地域の資源になる

個人が地域と“つながれる”道筋をつくる

対等に話せる場をつくる

活動的コア：つなぐ

【システムづくりのレベル】

地域の人、グループ、機関を“つなぐ”

事業と事業を“つなぐ”

地域や事業の範囲を超えた広域的な“つながり”
をつくる

さまざまな機関が“つながる”システムを提案し、
施策化する

インタビュー活動事例

1. 市町村
2. 県保健所
3. 学校保健
4. 産業保健

保健師の専門性

～横系(ジェネラリスト)としての機能～

◆内発的・主体的であること

複雑困難事例：現状に至った背景をともに振り返り、過去と現在をつなぎ、これからの生き方につなぐ

◆あるべき姿

対象者の「こうありたい」といった夢や意向の声を引き出す。「あるべき姿」は対象者の中にあり、その姿を対象者自身が自覚することで、解決される力も引き出される

保健師の専門性

～横系(ジェネラリスト)としての機能～

◆地域責任性:立ち位置

保健師は、住民も保健師も「何が何だかわからない」状況でも、それが健康を脅かす可能性があれば、その場から逃げることなく、また、対象者を切り捨てることなく引き受けていく立ち位置を自覚している

【総合相談と地域に責任を持つ体制】

◆ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ

いきいき暮らす住民とともに、暮らしやすい地域をつくることが保健師の役割。しかし、これらの中から健康を脅かされている住民や健康を脅かす環境を発見し、社会的弱者を見出す

保健師の専門性

～横系(ジェネラリスト)としての機能～

◆協働・仲間重視(ネットワーク)

ネットワークには、困難な事例に対して、地域が持つ情報や 体験的な知恵を発揮して総合的に対応できる力がある

◆パートナーシップという名の真のリーダーシップ

自ら出向いて調整し、話し合い、泥臭く、走り回り、それぞれが主体的に一緒に歩もうとすることへの先達の役を果たす

保健師の専門性

～横糸(ジェネラリスト)としての機能～

◆地域資源・システムの提言(アドボカシー)

保健師が事業化、システム化するのではなく、判断したことを住民と共有・協働し、住民自らが事業化、システム化する風土を生み出すように提言する

◆次世代等の先を見通した成果の重視

築かれた仕組み・システムは、その地域に派生する類似した他の問題にも十分対応が可能で、新たな問題を抱えた個人に還元される。地域のあるべき姿の実現は、先を見通し、次世代への健康づくりへつなげる

表3 活動領域別のベストプラクティスの特徴

職能	活動領域		領域毎の特徴領域	
			組織目的	対象範囲・関係性
保健師	地域保健		健康づくりは目的	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎集団 すべての人々、多様さ (日常生活)、地域 ○契約関係なし、期間限定なし
	学校保健		健康づくりも目的	<ul style="list-style-type: none"> ○機能集団 学童・生徒、教職員、親 (学習・教育生活)、学内+地域 ○対象者と契約関係にある かかわる期間が限定される
	産業保健等	組織外	健康づくりは条件	<ul style="list-style-type: none"> ○機能集団、比較的同質的 雇用主、雇用者 (就労・雇用生活)、職場+地域 ○対象者と契約関係にある かかわる期間が限定されがち
		組織内		<ul style="list-style-type: none"> ○機能集団、同質的 職場内に限定されがち ○対象者と契約関係にある かかわる期間が限定される パワー関係あり(トップの意向)

ベストプラクティスの要件

◆イマース (immerse) すること

肌で感じ、目で、耳で直接感じて、ぐじゃぐじゃした混沌とし、行き先のわからない状況に

【身を置き、浸る】

◆専門職としての内省

自他の区別をも揺るがす状況に身を置き、自分の価値観とも向き合わざるを得なくなり、自分と向き合う内省する

◆状況に委ねる

相手が決めることにゆだねられる強さを持つ

◆公共性を持つ

人と人がつながると、個人の利益を求めるのではなく、個人の責任にするのではなく、“われわれのこと”と位置づける

ドナルド、ショーンの反省的実践家

「反省的実践家」とは、複雑化した社会の中で苦悩する人々と連帯し「行為の中の知」「行為の中の省察」「状況との対話」によって、公共的使命と社会的責任を果たそうとする者である。知識や技術の専門分化した役割に自己の責任限定するスペシャリスト、すなわち「技術的熟達者」と対比される。

専門家の知恵～反省的実践家は行為しながら考える～、ゆみる出版、2001

保健活動を行う保健師 縦糸を結ぶ横糸としての ジェネラリスト

かかわる対象や自らの専門の“**範囲や境界**”を持たないで

さまざま人・さまざまな状況をつなぎ、
幅広く住民に向き合える

グループワークの進め方

保健師活動のコアについて

“私はどう思う” 30分

全体での共有 10分